



FujiPharma



特集

Fuji Pharma History —富士製薬工業のあゆみ—

トップインタビュー

『貢献』と『成長』を強く意識した
経営を通じて目標の達成を目指します

Fuji Pharmaを知る vol.3

～キーワードで知るFuji Pharma～

GOOD to GREAT vol.3

ジェネリックQ&A vol.3

「ジェネリック医薬品は先発医薬品とでは
製造している企業が違うけど、
品質や効能は同じなの？」

Fuji Pharma Letter

第47期報告書 2010.10.1～2011.9.30

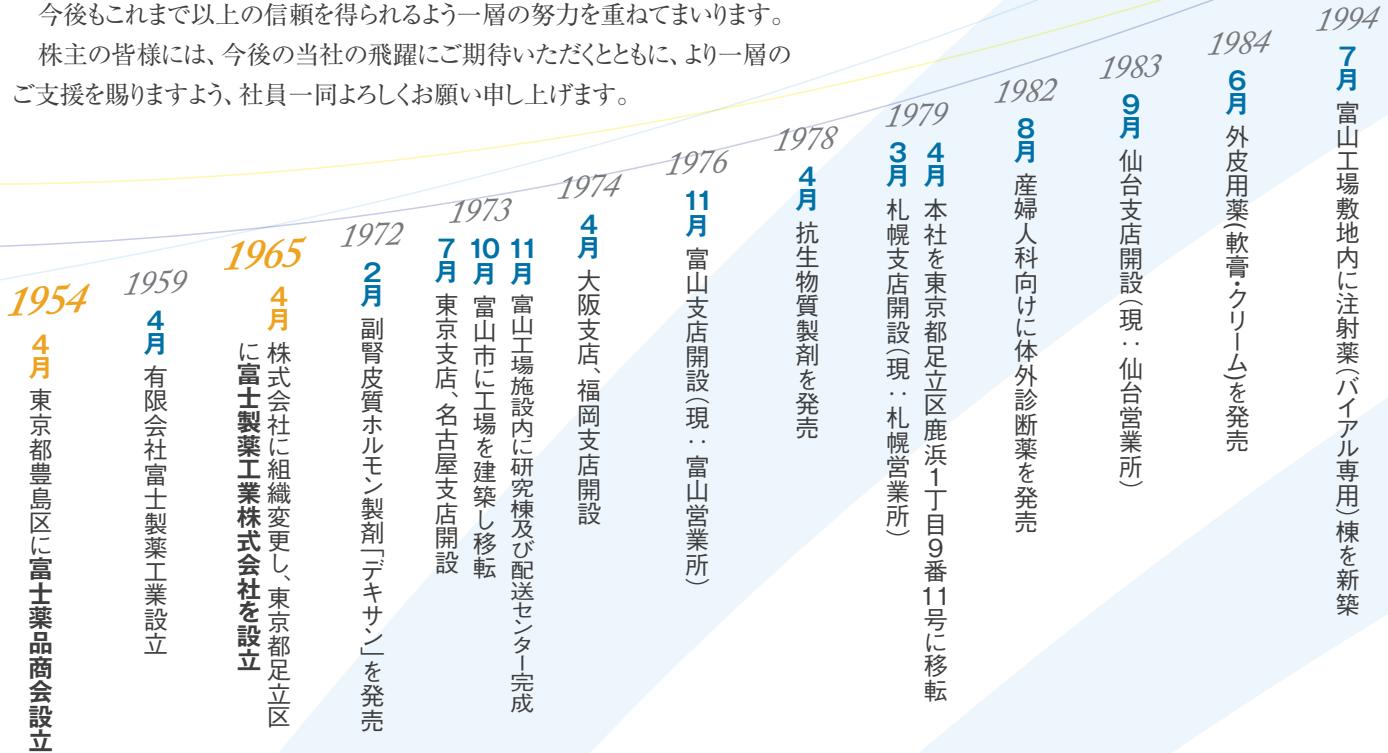
おかげさまで2011年7月11日に 東京証券取引所市場第二部へ 上場いたしました。

おかげさまで2011年7月11日をもって、当社株式は、株式会社東京証券取引所市場第二部に上場したことをご報告申し上げますとともに、株主の皆様をはじめ、関係者の皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

当社は1965年の設立以来、「優れた医薬品を通じて、人々の健やかな生活に貢献する」「富士製薬工業の成長はわたしたちの成長に正比例する」という経営理念の下、常に『貢献』と『成長』を目指してまいりました。

今後もこれまで以上の信頼を得られるよう一層の努力を重ねてまいります。

株主の皆様には、今後の当社の飛躍にご期待いただくとともに、より一層のご支援を賜りますよう、社員一同よろしくお願ひ申し上げます。





富山工場

1995

6月 日本証券業協会に株式を店頭登録

1996

7月 尿路・血管造影剤「オイパロミン」を発売

1997

7月 物流業務を外務委託し、東京都大田区に物流センター設置

2000

4月 外皮用薬「エルタシン軟膏」の輸入販売を開始

2001

7月 尿路・血管造影剤「イオパーク」を発売
6月 循環器管用药「アリプロスト注」を発売

2002

5月 富山工場敷地内にホルモン注射剤工場を新築

2003

6月 本社及び東京支店を東京都千代田区に移転

2005

4月 「第Ⅱの創業」新ブランドマーク、ホームページリニューアル

2006

10月 ノーベルファーマ株式会社と月経困難症治療薬「エンドベル錠」(※)の販売に関する基本合意書締結

2007

7月 ノーベルファーマ株式会社と月経困難症治療薬「ルナベル[®]配合錠(開発番号スエーゴ)」の販売に関する契約締結

2008

6月 新薬「ルナベル[®]配合錠」(子宮内膜症に伴う月経困難症治療薬)の販売開始

2009

2月 テルモ株式会社と業務提携に関する協議開始並びに資本提携

2010

4月 株式会社ジャスダック証券取引所と株式会社大阪証券取引所の合併に伴い、株式会社大阪証券取引所JASDAQ市場に上場
2月 持田製薬株式会社とバイオ後続品の共同開発に関する契約を締結

2011

10月 株式会社大阪証券取引所JASDAQ市場の上場廃止
7月 株式会社東京証券取引所市場第二部上場
3月 本社及び東京支店を同区内で移転



ルナベル[®]配合錠



本社・東京支店

(※) 本剤の名称は、医療過誤防止の観点より「エンドベル錠」から「ルナベル[®]配合錠」に変更しております。



『貢献』と『成長』を強く意識した 経営を通じて目標の達成を 目指します。

代表取締役社長
今井 博文

このような市場環境の中、当社は中期経営計画に掲げた重点戦略を着実に推進してまいりました。当期の大きな実績としては、重点戦略の一つとして掲げた三極(日本・米国・欧州)GMPモデルとなる昨年3月に建設を開始した新注射剤工場(第5製剤棟)の第1期工事が完了し、既にその一部で商業生産を開始できたことが挙げられます。また、昨年2月より持田製薬株式会社と共同開発を進めている遺伝子組み換えヒト顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)製剤は、2013年の上市を目標に、臨床第II/III相試験を実施しており、新たな注射剤を軸とする重点疾患領域の拡大へ向けた準備が順調に進んでいます。当社の強みである女性医療においては、昨年12月に新薬「ルナベル®配合錠」に「機能的月経困難症」^{※1}の効能が追加され、月経痛に悩む多くの女性のQOL(Quality of Life:生活の質)の向上により一層貢献できるものと考えております。また、国内初となる経口避妊剤のジェネリック医薬品を発売いたしました。

営業面では、「ルナベル®配合錠」の販売強化に加え不妊症治療薬等の主力製品のシェア拡大を図るとともに、急性期医療の分野では全国のDPC^{※2}(入院医療包括評価)対象病

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、この度の東日本大震災により被災されました皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

■ 当期の業績レビュー

当期の医療用医薬品業界は、国内新薬メーカーや外資系大手ジェネリックメーカー等による本格的なジェネリック医薬品市場への参入が増加しており、企業間の競争がますます激化し市場環境も厳しさを増してまいりました。

用語解説

※1 月経困難症：日常生活に支障をきたすほどの生理痛を生じる症状。臓器に病気があるために起こる器質性月経困難症と、ホルモンの影響で起こる機能的月経困難症があります。

※2 DPC：Diagnosis Procedure Combination=診断群分類とは、医療費の定額支払い制度に使われる評価方法。入院医療包括的診療報酬制度として、平成15年から厚生労働省が推進し、現在では全国で導入する病院が増加しています。

院に向けて、新規開拓・取引拡大のための営業活動を積極的に展開しました。

その結果、当期の売上高は前期比9.8%増の216億2千3百万円と過去最高の売上を更新しました。利益面でも、営業利益は同10.3%増の35億6千5百万円、経常利益は同9.3%増の35億4千5百万円、当期純利益は同13.4%増の22億4百万円となり、過去最高益を達成しております。株主の皆様への期末配当金は、株主の皆様の温かいご支援に感謝の意を表し、前期末同様の1株につき17円の普通配当に東京証券取引所市場第二部上場記念配当金3円を加えて、合計20円とさせていただくことといたしました。

■ 中期経営計画について

当社は、「優れた医薬品を通じて、人々の健やかな生活に『貢献』する」と「富士製薬工業の『成長』はわたしたちの成長に正比例する」ことを経営理念としておりますが、設立50年目にあたる2014年9月期を最終年度とする現中期経営計画では、既存コア事業の『貢献』度を引き上げ、設立51年日以降の次のステージに向けた新たな『成長』戦略を具体化することを目指しています。

具体的には、がん等の重点疾患領域において、「診断から治療へ」をテーマに、対象領域をこれまでのがん診断の造影剤からがん治療の抗がん剤などへとその活動範囲を拡大し、バイオ後続品^{※3}、DDS^{※4}（ドラッグ・デリバリー・システム）抗がん剤・抗真菌剤など、新たな注射剤を軸に急性期医療に

おける競争優位な成長基盤を構築します。また、女性医療においては、主力の不妊症治療薬をはじめ、月経困難症治療薬、更年期障害、避妊などの産婦人科ホルモン療法のサポートを更に強化するとともに、ジェネリック医薬品と新薬の相乗的成長モデルを構築することで、女性医療分野におけるリーディングカンパニーとしての地位を確立します。加えて、次のステージに向けて、研究開発を真ん中にした事業運営体制を構築し、中長期の戦略的パイプラインの充実を図るとともに、急性期医療と女性医療の戦略疾患領域における営業のプレゼンスを確立します。また、製造面においては、今年完成した新注射剤工場の第Ⅱ期工事に着手します。更にこれらを実現するための人材育成・獲得等人材パイプラインを強化し、新たな意思決定と執行体制の構築を図ります。

経営理念に掲げている『貢献』と『成長』を強く意識した経営を通じて、当初の計画より1年遅れることにはなりますが、2015年9月期には売上高350億円、経常利益70億円、当期純利益43億円、総資産経常利益率15%以上の達成を目指します。

■ 株主の皆様へ一言

当社は2011年7月11日付で東京証券取引所市場第二部への上場をいたしました。今後も企業信用力の更なる向上と社内体制の充実に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※3 バイオ後続品：国内で既に承認されたバイオテクノロジー応用医薬品（先行バイオ医薬品）と同等・同質の品質および安全性、有効性を有するものとして、異なる製造販売業者により開発される医薬品と定義されております。

※4 DDS：Drug Delivery System=必要な薬物を必要な時間に必要な部位で作用させるためのシステムのこと。当社では持続的に薬物を放出する徐放性注射剤を開発しております。

Fuji Pharmaを知る

～キーワードで知るFuji Pharma～

Vol.3

当社の主要製品の一つである造影剤は、がんの診断時にも用いられています。当社では、がんなどの重点疾患領域において、造影剤などの注射剤技術を軸に「診断薬（造影剤）から治療薬（抗がん剤等）へ」と対象領域を広げ、事業基盤の拡大を図っています。

1 急性期医療

がんの診断・検査から治療へ

化学療法や放射線療法などのがん治療は、白血球の減少を伴います。当社では、持田製薬株式会社と白血球の一つである好中性顆粒球の形成を促す、遺伝子組み換えヒト顆粒球コロニー刺激因子（G-CSF）製剤の共同開発契約を締結し、臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験を実施しており、2013年の市場投入を目指しています。

更に、他社とも協働しながら、「バイオ後続品」「DDS（徐放型）製剤」「D&D（ドラッグ&デバイス）抗がん剤」などの注射剤の戦略品を軸に、急性期医療分野において、競争優位性のある成長基盤の構築を図ります。

2 富山工場における高活性注射剤の生産拡充

2011年7月、当社富山工場における第5製剤棟が竣工しました。地上4階地下1階建て、延床面積11,585.6m²のこの大規模な生産施設は、高活性注射剤や抗がん剤などの主力工場という位置づけのほか、三極GMP（日・米・欧の当局が規制する医薬品の製造管理および品質管理に関する基準）対応施設として、今後の当社のグローバル展開の重要な拠点と位置づけています。

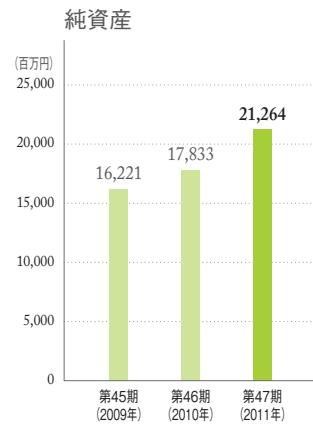
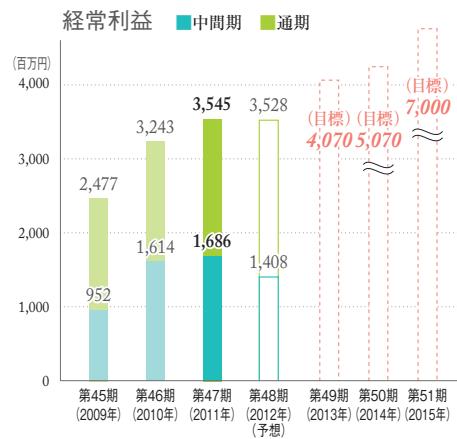
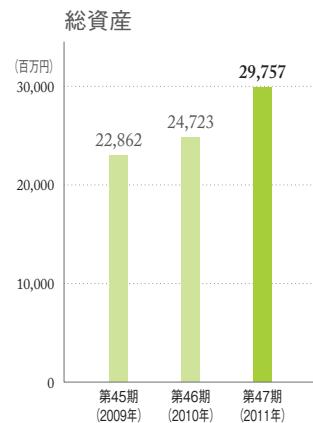
すでに、既存の2倍の生産能力を持つ大型樹脂シリンジ製剤製造ライン（造影剤製造ライン）が稼働し、生産を開始しております。また、最高度の無菌保証レベルを持つ硝子シリンジ製剤製造ライン（バイオ後続品G-CSF 製剤製造ライン）も商業生産に向けて準備中で、将来的には抗がん剤などの高活性医薬品の生産ラインも含めた合計6ラインが稼働する予定です。

当社の成長戦略の要となるこの第5製剤棟の稼働を通じて、注射剤メーカーとしてのさらなる差別化、高度化を目指していきます。



業績推移

○ 主力製品群の堅調な売上増により、前期に引き続き過去最高売上・最高益を達成



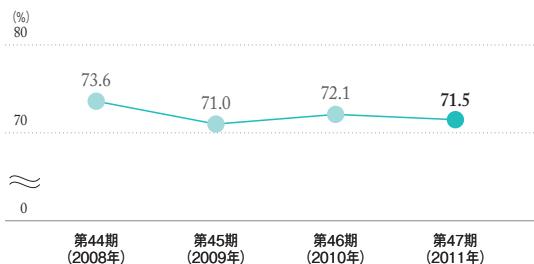
財務諸表（要旨）

● 貸借対照表

（単位：千円）

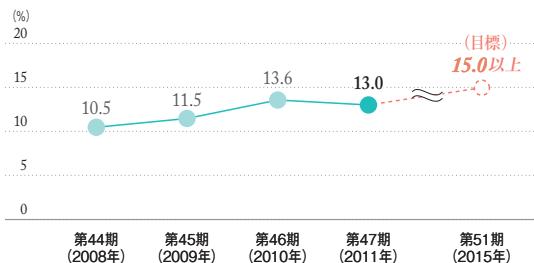
	当 期 (2011年9月30日現在)	前 期 (2010年9月30日現在)
（資産の部）		
流動資産	20,537,381	16,588,793
現金及び預金	4,755,373	2,592,763
受取手形及び売掛金	8,286,740	7,686,941
たな卸資産	5,255,436	4,875,413
その他	2,239,830	1,433,673
固定資産	9,220,196	8,135,166
有形固定資産	7,581,853	5,901,313
無形固定資産	1,027,719	1,141,459
投資その他の資産	610,622	1,092,394
資産合計	29,757,577	24,723,959
（負債の部）		
流動負債	7,588,743	6,058,069
固定負債	904,188	832,567
負債合計	8,492,931	6,890,636
（純資産の部）		
株主資本	21,264,494	17,836,363
評価・換算差額等	150	△3,039
純資産合計	21,264,645	17,833,323
負債純資産合計	29,757,577	24,723,959

自己資本比率



株式発行による資本金、資本剰余金の増加や当期純利益による利益剰余金が増加したものの、長期借入金などが増加したことから自己資本比率は微減となりました。

ROA



売上増により経常利益は増加しましたが、株式発行等により資産が増加したためROAは前期に比べ0.6ポイント低下しました。



詳しくはIRサイトをご覧ください。

<http://www.fujipharma.jp/ir/>

● 損益計算書

(単位：千円)

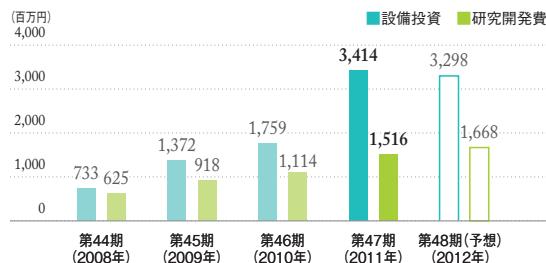
	当 期 (2010年10月1日から 2011年9月30日まで)	前 期 (2009年10月1日から 2010年9月30日まで)
売上高	21,623,813	19,698,482
売上原価	11,323,822	10,619,091
売上総利益	10,299,990	9,079,390
販売費及び一般管理費	6,734,212	5,846,546
営業利益	3,565,777	3,232,844
営業外収益	16,625	15,308
営業外費用	37,384	4,714
経常利益	3,545,018	3,243,439
特別利益	—	40,322
特別損失	48,157	127,542
税引前当期純利益	3,496,860	3,156,219
法人税、住民税及び事業税	1,363,198	1,321,903
法人税等調整額	△71,183	△109,756
当期純利益	2,204,846	1,944,071

● キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

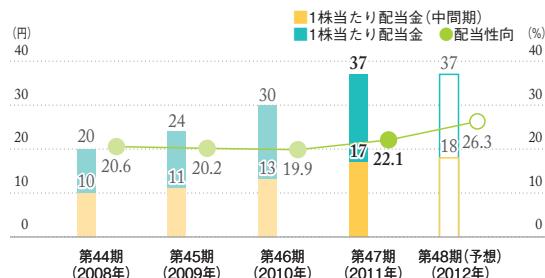
	当 期 (2010年10月1日から 2011年9月30日まで)	前 期 (2009年10月1日から 2010年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,954,075	2,168,237
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,288,710	△1,404,419
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,497,594	△334,338
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,162,959	429,479
現金及び現金同等物の期首残高	3,097,674	2,668,194
現金及び現金同等物の期末残高	5,260,633	3,097,674

研究開発費・設備投資



当期の当社の設備投資状況の主なものといたしましては、新注射剤工場（第5製剤棟）の建設工事25億8千5百万円などがありました。

1株当たり配当金・配当性向



当期末の配当につきましては、本年11月9日発表の配当予想のとおり、1株につき金17円の普通配当に東京証券取引所市場第二部上場による記念配当金3円を加えた20円といたしました。第50期（2014年9月期）には、配当性向30.0%を目標としております。

● 会社概要

会社名 富士製薬工業株式会社 (Fuji Pharma Co., Ltd.)
 所在地 〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7
 設立 1965年4月
 資本金 24億4,741万円
 事業内容 医療用医薬品の開発・製造・販売
 (注射剤、内用剤、外用剤、診断薬)
 役員 代表取締役社長 今井 博文 取締役(社外) 小沢 伊弘
 (2011年 12月21日現在) 常務取締役 広見 覚 取締役(社外) 内田 正行
 常務取締役 徳永 賢一 常勤監査役(社外) 中村 稔
 取締役 上出 豊幸 監査役(社外) 三村 藤明
 取締役 三橋 厚弥 監査役(社外) 佐藤 明
 社員数 543名
 事業所 本社: 東京
 支店: 東京、名古屋、大阪、福岡
 営業所: 札幌、仙台、富山
 工場: 富山

● 株式等の状況

発行可能株式総数 28,220,000株
 発行済株式総数 14,120,000株
 株主数 4,233名

株主メモ

事業年度 毎年10月1日から翌年9月30日まで
 定時株主総会 毎年12月開催
 基準日 定時株主総会 毎年9月30日
 期末配当金 毎年9月30日
 中間配当金 毎年3月31日
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
 公告掲載新聞 日本経済新聞
 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 事務取扱場所 (郵便物送付先)
 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先)
 ☎ 0120-176-417
 (インターネットホームページ URL)
<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
 上場証券取引所 株式会社東京証券取引所 第二部

● 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
今井 博文	2,025,000	14.34
三井物産株式会社	1,930,600	13.67
有限会社FJプランニング	1,925,000	13.63
テルモ株式会社	643,500	4.56
今井 道子	639,000	4.53
新井 規子	620,000	4.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	514,100	3.64
BBH BOSTON-HEARTLAND VALUE FUND, INC.	455,300	3.22
富士製薬工業従業員持株会	209,490	1.48
RBC DEXIA INVESTOR SERVICES TRUST. LONDON-CLIENTS ACCOUNT	198,600	1.41

(注) 1. 持株比率は自己株式(67株)を控除して計算しております。
 2. 有限会社FJプランニングは、2011年10月に有限会社FJPに商号を変更されております。

● 所有者別株式分布



● 第47期期末配当金のお支払いについて

第47期期末配当金は、同封の「第47期期末配当金領収証」によりお支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)で払渡期間内(平成23年12月22日から平成24年1月23日まで)にお受け取りください。なお、振込先をご指定の方には、「第47期期末配当金計算書」及び「配当金のお振込先について」を同封いたしますので、ご確認くださいようお願い申し上げます(株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。

● 上場株式配当等のお支払いに関する通知書について

租税特別措置法の平成20年改正(平成20年4月30日法律第23号)により、平成21年1月以降に当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴取税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りしております(同封の「第47期期末配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります)。なお、「支払通知書」は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます(株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。

GOOD to GREAT

研究開発本部 研究開発部開発グループ 開発企画課 リーダー T・Mさん

『GOOD TO GREAT』を標榜する現中期経営計画では、その基本戦略の一つに、「研究開発を真ん中にした事業運営体制の構築」があります。ここでは、研究開発本部で新規開発テーマの企画・提案・推進にあたる研究開発部開発グループのメンバーの声をお届けします。

私は、これまで当社が特化してきた女性医療・急性期医療を中心に、医療現場の声を聞きながら、当社らしいジェネリック医薬品の開発テーマの企画・提案に取り組んできました。また、中期経営計画の実現にも取り組んでおりますが、その中で一番の課題は、中長期の戦略パイプラインを構築することにあります。女性医療においては、中期経営計画の基本方針に「リーディング・カンパニーの確立を目指す」とありますが、ジェネリック医薬品だけでなく、新薬も提供できる体制を構築していきたいと考えています。また、急性期医療においては、「新たな注射剤を軸に重点疾患領域を拡大する」ことを目指し、当社の独自性を発揮するため、通常のジェネリック医薬品と比較して難易度が高い開発テーマを積極的に取り組みたいと考えております。

また、国内医薬品市場は競争が激化しており、その中で、当社が女性医療・急性期医療の分野において求められる会社であり続けるためには、医療現場のニーズをしっかりと把握し、応える製品を提供し続けることが大切だと考えています。社員一人一人が得られる医療現場のニーズは限られますが、それらを集約すれば大きな情報となります。研究開発本部では、マーケティング本部と協力して医療現場のニーズの収集・集約に取り組んでおります。

さらに、当社では、次世代に向けてGOODな『まじめ社員』からGREATな『戦略スタッフ』への転換を目指しておりますが、一方で、今まで当社に受け継がれてきた「まじめさ」や「他者への思いやり」は、これからも変わることなく大切に受け継いでいきたい部分であり、私自身も常にそうありたいと思っています。また、私自身GREATな社員への転換に向けて、自らも経営者の視点に立って考えることを意識して業務を遂行するとともに、自分の理想とする「深沈厚重」な社内外の方々と交流する機会を持ち、自らの向上に努めていきたいと思っております。



ジェネリックQ&A



ジェネリック医薬品は先発医薬品とでは製造している企業が違うけど、品質や効能は同じなの？

厚生労働省が先発医薬品（新薬）と同等（同じ）と認めた医薬品です。

ジェネリック医薬品は、先発医薬品の特許が満了となった後に、その先発医薬品と有効成分、分量、用法、用量及び効能・効果を同じにして開発された医薬品です。

ジェネリック医薬品が製造販売の承認を得るまでには、開発段階で、厚生労働省が定めたさまざまな試験を行い、有効性や安全性が先発医薬品と同等であることを証明しなければなりません。また承認後の製造過程においても、薬事法などのさまざまな規制の下で、先発医薬品と同じ品質基準での製造が義務付けられています。すなわち、現在、

製造・販売されているジェネリック医薬品は、国の厳格な審査を受け、長い間多くの患者様に使用されてきた先発医薬品と有効性や安全性が同等であると認められたものです。また、ジェネリック医薬品では、製剤工夫により、有効性や安全性は変えずに、飲み易さや味を改善したりすることも可能です。

このように、ジェネリック医薬品と先発医薬品とでは、製造する企業が異なりますが、有効性や安全性の違いはほとんどないと言えます。



当社が運営する
生理痛に関する情報サイト
生理痛情報ナビ

<http://seiritsu-navi.com/>



富士製薬工業株式会社 Fuji Pharma Co., Ltd.

●IRに関するお問い合わせ

本社／管理部

〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7 精糖会館6F

TEL：03-3556-3344 FAX：03-3556-4455 URL：http://www.fuji-pharma.jp/

